

案件概要書

2024年2月27日

1. 基本情報

- (1) 国名：ガーナ共和国（以下、「ガーナ」という。）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：アシャンティ州クマシ市
- (3) 案件名：クマシ市における内環状道路改良計画
(The Project for the Improvement of the Inner Ring Road in Kumasi City)
- (4) 計画の要約：
本計画は、クマシ市において、内環状道路上の2交差点の改良及び同交差点間の2車線道路の4車線への拡幅を行うことにより、市内交通・流通の円滑化及び安全性向上並びに主要輸送回廊の物流網の改善を図り、もってガーナのインフラ整備に寄与することを目的とする。

2. 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

ガーナは不安定な国が多い西アフリカ地域において、政治的・社会的安定を保ち、同地域における民主主義の牽引役を担っていることから、地域全体の安定と繁栄に重要な役割を果たしている。加えて、アフリカ連合（AU）及び西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）の主要国であり、日本との貿易額が西アフリカ諸国の中でも高い水準にある。本計画を通じたインフラ整備は、同国の経済活性化等の同国の経済成長に寄与するものである。

同国は国際場裡において我が国と良好な協力関係にある。また、第8回アフリカ開発会議（TICAD8）を除いて過去7回のTICADには全て大統領が参加しているほか、2016年や2018年には大統領が訪日、2023年5月には岸田総理がガーナを訪問して首脳会談を行うなど、良好な関係が築かれており、開発協力の実施による協力関係の維持・強化は重要である。当該首脳会談においては、アクフォ＝アド大統領よりインフラ分野に関する日本の支援に謝意が表明されており、岸田総理からもインフラ整備は経済活動の活性化のために重要であり、今後も同分野の支援を進めていく旨応答していることから、本計画を実施することは外交的観点からも意義が高い。

- (2) 当該国における道路セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け

ガーナは、西アフリカ地域の交通・物流の中心地としての地位を確立すべく、国際幹線道路の拡充・交通円滑化を進めている。同国の主要な開発計画の一つである「ガーナインフラ計画 2018-2047年」では、道路インフラ整備の重点項目として、国内道路ネットワーク整備や舗装路拡充などに加え、タコラディ港からクマシ市（同国の第2の都市。）を經由してブルキナファソを繋ぐ中央回廊の連結性向上を挙げている。

同市は、カカオを含む農業や農産加工業、木材、鉱物業の集積地として同国経済において重要な役割を果たしており、加えて本邦自動車関連企業の販売代理店が同市内南部に所在している。また同市は発展の進む同国南部・沿岸部と、相対的に開発の遅れている同国北部との物流を繋ぐ要所でもあり、同市の人口は急速に増加しており、2010年に201万人であった同市の人口は、2045年には548万人への急増が見込まれている。かかる状況下において、同市では道路インフラの整備不足や交通安全施設の未整備を原因とした交通渋滞の慢性化、交通事故発生リスクが増大するなど、安全に配慮したインフラ整備が喫緊の課題となっている。

対ガーナ共和国国別開発協力方針（2019年9月）では、「インフラ開発」が重点分野の一つとされている。また第8回アフリカ開発会議（TICAD8、2022年）においても、アフリカ大陸における三重点回廊（東アフリカ・北部回廊、ナカラ回廊、西アフリカ「成長の環」）。同市は西アフリカ「成長の環」の主要拠点の連結性向上及び質の高いインフラ投資を行うこととしており、本計画はこれら方針に合致する。本計画は、西アフリカ地域の物理的連結性を強化することから、TICAD8にて我が国が掲げている「自由で開かれた国際経済システムの強化」の実現に寄与するものである。

3. 計画概要

* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

(1) 計画概要

① 計画内容

ア) 施設、機材等の内容：

【施設】既設ラウンドアバウト交差点（サンタシ交差点及びアホジョウ交差点）の平面信号機交差点への改良、既設交差点及び道路の舗装撤去及び舗装、既設2車線道路の4車線拡幅（3.4km）

【機材】信号機材（太陽光発電機能付）、予備電源装置、道路付帯施設一式（照明装置等）

イ) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容：詳細設計、入札補助、施工監理

② 期待される開発効果：本計画対象区間サンタシ交差点からアホジョウ交差点東部区間までの平均走行時速（km/h）の向上（14.76→29.34）及び平均走行時間（分）の短縮（29→14.6）が期待される。

③ 計画実施機関／実施体制：道路・高速道路省都市道路局（DUR）

④ 他機関との連携・役割分担：世界銀行は別途同市内環状道路に繋がる幹線道路でバス高速輸送システム（BRT）計画を実施中。本計画の対象交差点・道路には影響しないものの、同市の整備方針等について協議・連携のうえ、将来的な連携可能性を確認する。

⑤ 運営／維持管理体制：DURが運営・維持管理の責任を担う。

(2) その他特記事項

- 環境社会配慮カテゴリ分類：B

- ジェンダー分類： GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）
- ガーナの所得水準は相対的に高いことから、「所得水準が相対的に高い国に対する無償資金協力の効果的な活用について」に基づき、無償資金協力の供与の適否について精査が必要である。我が国は、「質の高いインフラ投資に関する G20 原則」を踏まえた質の高いインフラ投資の推進を支持するとともに、TICAD8 において、「連結性・質の高いインフラ投資」に取り組むことを表明しており、本計画は同表明を具体化するものである（「重要政策との関係」）。本計画対象都市は同国内で相対的に開発の遅れている北部地域との連結性を向上する要所である。北部地域は貧困率が高く、経済指標及び人間開発指数においても南部に顕著に遅れている地域であることから、本計画は南北格差是正に資するものであり（「人道上のニーズ」）、また同市は、TICAD プロセスにおいて我が国が支援を表明した三重点地域のうちの一つである西アフリカ「成長の環」の回廊上に位置しており、西アフリカ地域全体の物理的連結性の強化にも寄与することから、ガーナのみに負担を課すことは難しいと判断される（「広域性」）。さらに、同国は AU 及び ECOWAS の主要国であり、日本との貿易額が西アフリカ諸国のなかでも高い水準にあり、二国間関係及び国際関係を強化する意味でも本計画の意義は大きい（「外交的観点」）。これらの要素を総合的に勘案し、本計画の無償資金協力の供与が適当と判断できる。

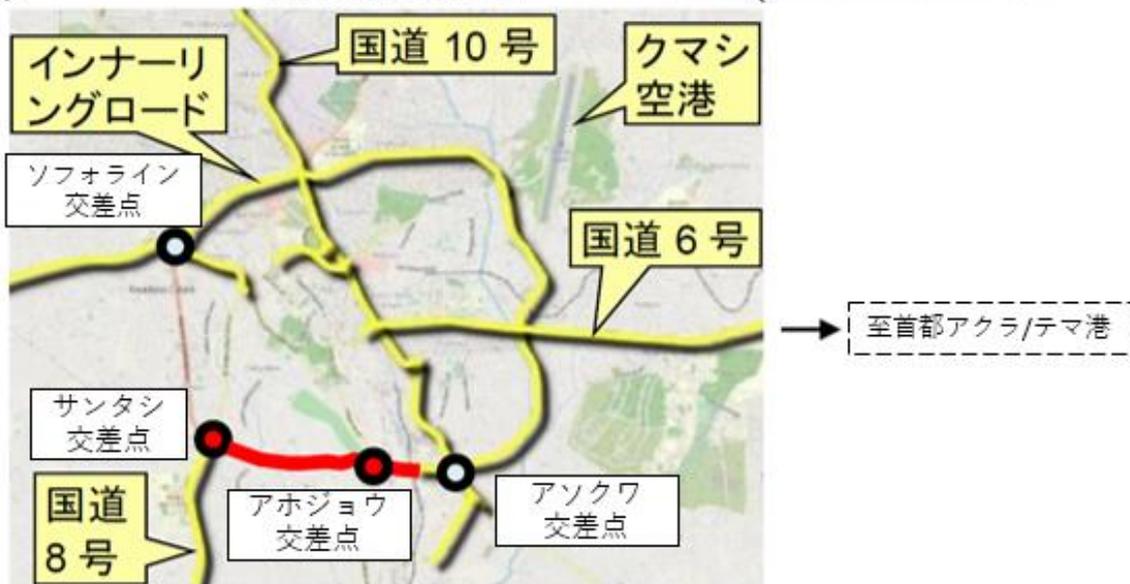
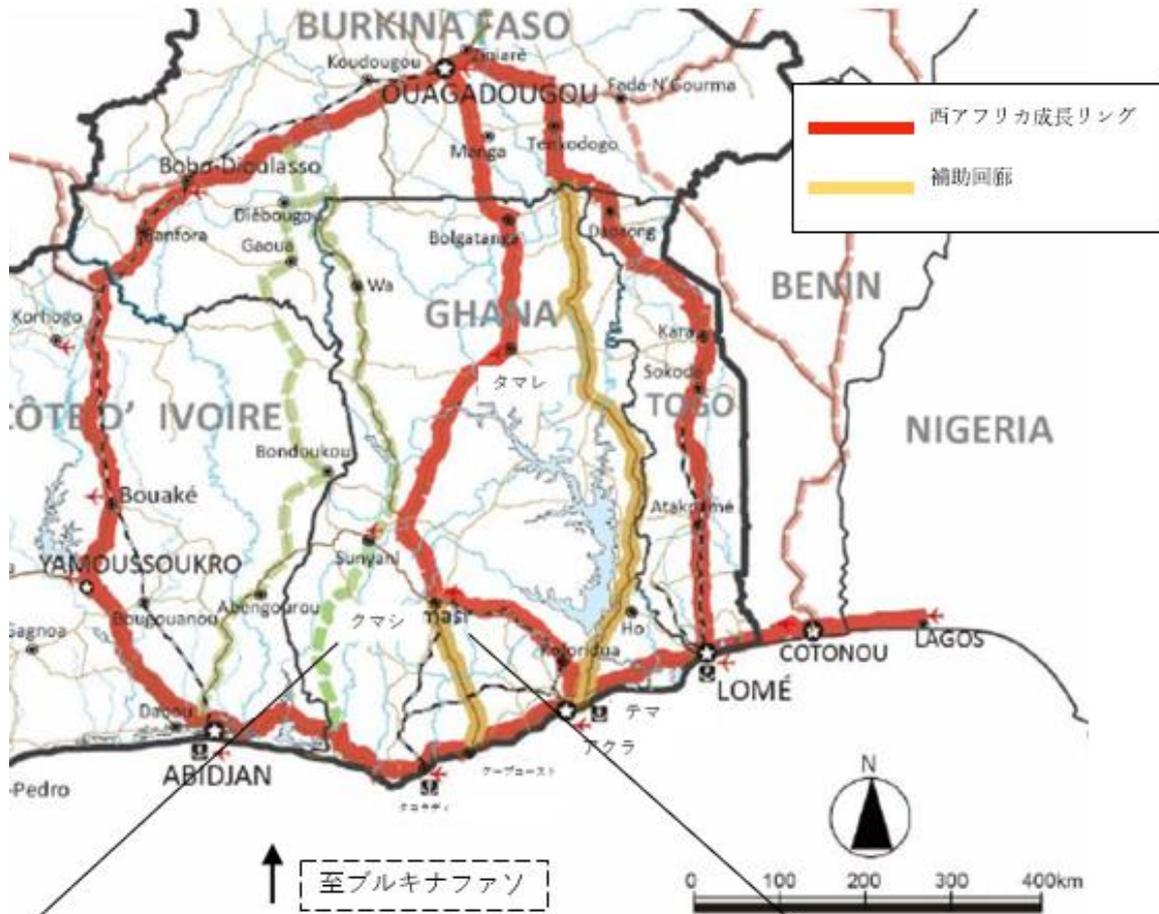
4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

- ガーナ向け無償資金協力「国道 8 号線改修計画」（評価年度 2016 年）の事後評価において、道路完成後は車道で速度を上げて走行する車両事故の可能性が懸念されるため、同案件では全路面工事完了の後、供用開始前に、実施機関や警察・地域住民とで協議を行い、対象区間の安全対策を強化することで、事故抑止に取り組み成果を上げている。この教訓を踏まえ、本計画においても、完工後の安全対策措置を計画的に実施する。

以 上

[別添資料] クマシ市における内環状道路改良計画 地図

[別添資料] ガーナ 「クマシ市における内環状道路改良計画」 地図



— 4車線道路 ● 対象交差点 — 対象道路(2車線)

出典：JICA「ガーナ国クマシ市交差点改良に係る情報収集・確認調査インテリムレポート（案）」より JICA 作成